

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-107

学校名・団体名	高千穂町立田原小学校
HPアドレス	http://cms.miyazaki-c.ed.jp/1805/htdocs/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ICT活用による児童の伝え合う力の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>効果的な実物投影機の活用について研究・実践を行うことで、児童一人一人の授業のねらいを確実に達成し、これまで継続して取り組んでいる伝え合う学習活動を更に発展させる。また、児童の意欲を高め、発表に対する苦手意識を軽減させるとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくみ、「自分の考えをしっかりともち、相手に分かりやすく伝えることのできる児童」の育成に寄与することができる。</p>	

1 活動内容

(1) 対象者

全学年 (61名)

(2) 教科

全教科のうち、伝え合い活動の場面等(「教育の情報化に関する手引」(文部科学省)を参考に、指導のねらいに沿って、学習効果の高まりが期待できる単元)

(3) ねらい

次の2つの学習場面について、実物投影機を活用した授業改善の在り方を検討することで、児童の伝え合う力を育成し、授業のねらいを確実に達成させる。

① 実物投影機を教師が使う場面

② 実物投影機を児童が使う場面

(4) 活動の特色

「校内の教員全員が実物投影機を使用し、授業での必要な場面で活用できるようにすることで、全児童にとって分かりやすい授業の実施につなげる」という考え方のもと、特定の学年による研究ではなく、全学年の授業において、実物投影機の活用実践に取り組んだ。

(5) 活動時期及び内容

① ICT活用に関する研修

実物投影機をはじめとするICT機器を活用した授業実践について、実際に実践を行っている県内の教諭等を講師として招き、模擬授業を行った。また、ICT活用場面について、単元ごとのコンテンツや活用の具体例について講義・相談を行った。その他、業者のICT支援サービスを利用し、実物投影機の操作等技術的な研修を行った。

(ア) 8月5日(水) 13:00~14:00

実物投影機・タブレットの操作法(富士ITソリューションICT支援サービス)

(イ) 11月24日(火) 10:00~12:30

理科室における実物投影機の操作法(富士ITソリューションICT支援サービス)

(ウ) 12月16日(水) 14:00~16:30

実物投影機の活用法

(富士ITソリューションICT支援サービス)

(エ) 12月25日(金) 10:00~12:00

児童のためのICTデザイン

(宮崎県教育研修センター主幹・指導主事)

(オ) 1月18日(月) 14:00~16:30

PC室におけるICTの活用について

(カ) 2月19日(金) 14:00~16:30

2年生授業支援・研究授業

(富士ITソリューションICT支援サービス)



② 授業実践

本実践のねらいに沿って、授業を「ア 実物投影機を教師が使う場面」、「イ 児童が使う場面」、の2つを設定して授業実践を行った。

ア 実物投影機を教師が使う場面

主に導入や展開の場面で資料等を提示し、意欲の喚起や理解の深化を助けるために活用することとした。また、研修等でも話題となった、フラッシュ教材等も活用して、前時の授業の振り返りや反復練習等を行い、授業内容の定着を図った。



イ 実物投影機を児童が使う場面

主に展開やまとめの場面で発表に対する苦手意識を軽減させるとともに、表現の手助けをするツールとして活用することとした。また、本校は、平成23年度から「自分の考えをしっかりともち、相手に分かりやすく伝えることのできる児童」を目指した研究に取り組んでいることから、発表を聞き手に分かりやすくすることで、話し合いの基礎を身に付けさせており、今年度は、「聞く力」「話す力」それぞれの深化について研究してきた。話すためのツールとして活用する一方で、その発表を実物投影機での提示を行い、聞き手にとって視覚的に分かりやすくすることで、「話す・聞く」の両方のスキル向上を目指し、話し合いの基礎を見つけさせる工夫を行った。



2 成果及び子どもたちへの効果

効果的な実物投影機の活用について研究・実践を行うことで、児童一人一人の授業のねらいを確実に達成し、これまで継続して取り組んでいる伝え合う学習活動を更に発展させることができた。また、児童の意欲を高め、発表に対する苦手意識を軽減させるとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことができた。

今年度、本校は、高千穂町教育研究会公開校に指定されており、11月1日に公開授業を行ったが、実物投影機の活用について、児童の実態や授業の流れに応じた活用がなされている、と評価を受けた。



一方で、ICT活用に関する研修後にとったアンケートでは、活用のための改善点として、「まずは自分自身が使いこなせるようにあること」、「児童のポイントを絞った発表を支援すること」等の実物投影機の操作・活用や、「テレビと実物投影機の出し入れがスムーズにできること」、「接続の時間短縮」等の環境整備について課題が挙がった。

今後、実際に実物投影機を活用する研修や研究授業を行うと共に、実物投影機周辺の環境整備についても検討を行うなど、更なる実践・研究に取り組んでいきたい。